

祝辞

皆さん、おはようございます。ただ今、ご紹介いたしました大日本水産会の白須です。

本日は第62回全国漁港漁場大会の30年ぶりの沖縄県での開催、誠にありがとうございます。全国の水産関係者ともども心からお慶び申し上げます。私ども水産関係者の使命は何かと考えてまいります。



と、何と言っても国民、あるいは消費者に対する水産物の安定供給に尽きるわけです。この私ども水産会の根っこを担っていたいたいでいるのが、まさに本日、全国からお集まりの漁港漁場関係の皆様方です。皆様方の日頃のご努力があったからこそ、水産業が成り立ち、そして国民への安定供給も行えるわけです。あるいは水産業の基盤がよって立つ漁村の活性化においても、漁港漁場の果たす役割は極めて大きいものがあります。

お集まりの皆様方の日頃のご努力に対して、この場をお借りして心から敬意を表し、御礼を申し上げます。最近の水産業

と、何と言っても国民、あるいは消費者に対する水産物の安定供給に尽きるわけです。この私ども水産会の根っこを担っていたいたいでいるのが、まさに本日、全国からお集まりの漁港漁場関係の皆様方です。皆様方の日頃のご努力があったからこそ、水産業が成り立ち、そして国民への安定供給も行えるわけです。あるいは水産業の基盤がよって立つ漁村の活性化においても、漁港漁場の果たす役割は極めて大きいものがあります。

を巡る状況は、先程来、お話の通りで、経済状況もこのところの景気低迷で、需要も低迷しています。また、魚価も安い、一方、燃油をはじめとするコストは高止まりなど、いい話がありません。閉塞感がある中で、全国の水産関係者は一生懸命、消費者に対する安定供給に汗を流してあります。しかし、このままではやはり貧乏ではないかと大変悲観される方もおられます。でも、決しそつではありませ

ん。ひとつこの際、将来に對して大いに希望を持つ、期待するという意味において、ぜひ世界に目を向けていただきたいと思っております。現在、世界中の国々で、世界中の人々が魚を食べ始めています。中国ではこの30年間で魚の消費量が5倍

に増加しています。特に沿岸域の所得の高い層を中心に魚を獲って食べ始めています。また米国、EUでもこの間、2倍に増加しています。ブラジル、インド、ロシアなどの国でも獲って魚を食べ始めています。まさに、世界中で魚の争奪戦に入っていると云っても過言ではありません。

この原因は、一つにはBSEの影響が大きかった訳ですが、やはり基本は健康志向であり、肉よりも魚の方が健康によい、ヘルシーだという考え方が定着してきています。あるいは経済発展に伴い、魚を食べる方がステイタスにつながる

べないと言われていた若者、子供、女性からも魚が大好きという声が続々と上がってきていること、トレンドが変化しつつあるのではないかと考えています。日本には1億2千万人を超える人口があり、大変大きなマーケットがあります。

更には、世界中で魚の争奪戦の状況にあるとすれば、今後は、世界に向けての魚の輸出を視野にいれれば水産業の発展の大きな可能性が広がってくるのではないのでしょうか。ちなみに最近の円高で、輸出が大幅にダウンしているのではないかと入り、水産物の輸出は今年に入り、実はずっと、実は今年に入り、水産物の輸出は大変伸びています。これは、ロシアに對するサンマ、韓国に對するスケトウダラ、中国に對するイカ

の輸出などが今年に入って伸びているからです。まさにこれは世界が魚を求めているというところであり、逆にいうと日本が買いたいというところにもなるのですが、そういっても現状があります。今後とも水産物に対する需要は増加

することこそあれ、減少することはないと思えます。わが国も今後景気の回復につれて、必ず水産物に対する需要は戻ってくるかと確信しております。もうすでにこの兆候も見え始めています。皆さん元気を出していきましょう。

私もは将来に備えて資源をしっかりと維持管理し、安全・安心な水産物を消費者に提供する努力を怠ってはいけません。今後とも皆様方と力を合わせて、水産業の振興のためにお誓い申し上げます。全国からお集まりの漁港漁場関係の皆様方、そして開催地、沖縄県関係の皆様方、今後ますますのご発展を心からご祈念申し上げます。お祝いの挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

第62回全国漁港漁場大会の開催に当たり、ご挨拶申し上げます。全国各地から御参加いただきました関係者の皆様、ようこそ沖縄県にお越しくださいました。県民を代表して、心から歓迎を申し上げます。さて、海に囲まれた沖縄県では、サンゴ礁海域の浅瀬を利用した養殖業を始めとして、水産業の振興に力をかけております。中でもモスクやクルマエビの養殖による生産量は全国1位であり、沖縄県の代表的な水産物となっております。

このような状況の下、漁港は漁業活動の拠点のみならず、交通・緊急時の物資輸送など生活に密着した多面的な役割があります。また、離島過疎地域を活性化する拠点として漁港は必要であり、排他的経済水域の多面的機能を維持することにも、漁業資源の開発利用の促進強化につながる漁港の整備の継続が必要と考えております。こうした本県の取組みも参考にしながら、本大会を契機として、漁港漁場整備がよりいっそう進展することを期待しております。結びに、今大会が実り多いものになりますとともに、お集まりいただいた皆様、ますますの御健勝と御活躍を祈念申し上げます。歓迎の御挨拶といたします。

祝辞

本日ここに、第62回全国漁港漁場大会が開催される



我が国の漁業者は、安全・安心で新鮮な水産物を国民の皆様方の食卓にお届けするため、日夜努力を続けているところでございます。しかしながら、経済情勢は、急激な円高に景気が下押しされる

リスクが強まっており、産地の水産物価格や消費への影響が心配されるところであります。漁業情勢につきましては、特に今年は高温による漁業の変化が、漁業への様々な影響を生み出していることなど、依然として予断を許さない状況にあることと承知のとおりでございます。

私もこのたびは、今後、政府・国会に対し、

水産業の置かれている厳しい状況を理解していただき、漁業者及びJFグループの声をともに、漁業及び漁村の実態に即した実効ある政策が一刻も早く確立されるよう努めます。こうした中、水産業界は、漁業資源の持続的な利用を図るため、関係者による資源管理の努力を続けている

ところであり、近年では沿岸域において、自然生態系と調和しつつ人手を加えることにより、高い生産性と生物多様性の保全が図られる海が、里海として認識されるようになってきております。このように、漁業・漁村の有する多面的機能の発揮において、国境の監視・国土の保全を含め、水

産業は重要な役割を担っているところであります。漁業・漁村の繁栄を基とし、幅広い事業の展開の基盤となるのは、漁村社会において、漁港の存在であり、無くてはならない重要な位置づけとなっております。

また、資源の回復・増大と、藻場や干潟など豊かな生態系を維持するための水産環境整備、老朽化した種苗生産施設や漁港諸施設の

維持に向けた補修・整備の取り組みは、今後ともますます重要となってまいります。我が協会も、栽培漁業を推進する唯一の全国機関として、全国の都道府県やJFグループとの連携を強化し、積極的な産苗放流の展開による資源の造成など、豊かな海づくりに貢献してまいります。

最後になりますが、明日の漁業の発展のため、(社)全国漁港漁場協会とともに、諸事業を推進していく所存であることを表明し、お祝いの言葉といたします。

上原副知事

上原副知事

上原副知事

漁港整備はますます重要に

(社)全国豊かな海づくり推進協会会長 服部郁弘

我が国の漁業者は、安全・安心で新鮮な水産物を国民の皆様方の食卓にお届けするため、日夜努力を続けているところでございます。しかしながら、経済情勢は、急激な円高に景気が下押しされる

歓迎のことば

第62回全国漁港漁場大会の開催に当たり、ご挨拶申し上げます。全国各地から御参加いただきました関係者の皆様、ようこそ沖縄県にお越しくださいました。県民を代表して、心から歓迎を申し上げます。さて、海に囲まれた沖縄県では、サンゴ礁海域の浅瀬を利用した養殖業を始めとして、水産業の振興に力をかけております。中でもモスクやクルマエビの養殖による生産量は全国1位であり、沖縄県の代表的な水産物となっております。

このような状況の下、漁港は漁業活動の拠点のみならず、交通・緊急時の物資輸送など生活に密着した多面的な役割があります。また、離島過疎地域を活性化する拠点として漁港は必要であり、排他的経済水域の多面的機能を維持することにも、漁業資源の開発利用の促進強化につながる漁港の整備の継続が必要と考えております。こうした本県の取組みも参考にしながら、本大会を契機として、漁港漁場整備がよりいっそう進展することを期待しております。結びに、今大会が実り多いものになりますとともに、お集まりいただいた皆様、ますますの御健勝と御活躍を祈念申し上げます。歓迎の御挨拶といたします。

離島活性化のために漁港整備を

沖縄県知事 仲井真弘多 (代読) 沖縄県副知事 上原良幸



上原副知事

第62回全国漁港漁場大会の開催に当たり、ご挨拶申し上げます。全国各地から御参加いただきました関係者の皆様、ようこそ沖縄県にお越しくださいました。県民を代表して、心から歓迎を申し上げます。さて、海に囲まれた沖縄県では、サンゴ礁海域の浅瀬を利用した養殖業を始めとして、水産業の振興に力をかけております。中でもモスクやクルマエビの養殖による生産量は全国1位であり、沖縄県の代表的な水産物となっております。

このような状況の下、漁港は漁業活動の拠点のみならず、交通・緊急時の物資輸送など生活に密着した多面的な役割があります。また、離島過疎地域を活性化する拠点として漁港は必要であり、排他的経済水域の多面的機能を維持することにも、漁業資源の開発利用の促進強化につながる漁港の整備の継続が必要と考えております。こうした本県の取組みも参考にしながら、本大会を契機として、漁港漁場整備がよりいっそう進展することを期待しております。結びに、今大会が実り多いものになりますとともに、お集まりいただいた皆様、ますますの御健勝と御活躍を祈念申し上げます。歓迎の御挨拶といたします。

私もこのたびは、今後、政府・国会に対し、

水産業の置かれている厳しい状況を理解していただき、漁業者及びJFグループの声をともに、漁業及び漁村の実態に即した実効ある政策が一刻も早く確立されるよう努めます。こうした中、水産業界は、漁業資源の持続的な利用を図るため、関係者による資源管理の努力を続けている

第62回全国漁港漁場大会出席来賓一覧 (順不同、敬称略)

- 水産庁漁港漁場整備部長=橋本牧、
- 水産庁漁港漁場整備部整備課補佐=内田智
- 水産庁漁港漁場整備部計画課係長=藤島弘幸
- 水産庁漁港漁場整備部防災漁村課=中村元太
- (社)大日本水産会会長=白須敏朗
- (社)全国豊かな海づくり推進協会会長=服部郁弘
- 漁船保険中央会会長=上野新作
- 全国漁協女性部連絡協議会会長=宇都鈴江
- (財)漁港漁場漁村技術研究所理事長=影山智将
- (社)水産土木建設技術センター理事長=鹿田正一
- (財)漁船海難遺児育英会専務理事=佐藤信三
- (財)日本海洋リサーチ安全・振興協会振興事業部長=立石学
- 漁港漁場新技術研究会会長=坂井淳
- 漁村水環境研究会会長=山田康夫
- 全日本漁港建設協会事務局次長=尾形宏美
- (社)全国漁港漁場協会顧問=福屋正嗣
- 特殊法人韓国漁村漁港協会会長=沈好鐘
- 同協会漁港本部長=黄哲沢
- 同協会経営本部課長=李俊豪
- 同協会経営本部代理=朴政煥

【沖縄県】

- 県副知事=上原良幸
- 県議会議長=高嶺善伸
- 内閣府沖縄総合事務局農林水産部長=高柳宏充
- 内閣府沖縄総合事務局林務水産課長=岡本章
- 沖縄県農林水産部農漁村基盤統括監=知念武
- 沖縄県漁業協同組合連合会会長=國吉眞孝
- 糸満市長=上原裕常
- 糸満市議会議長=上原勲
- 沖縄市長=東門美津子
- 沖縄市議会議長=仲宗根弘
- 宜野湾市長代理市民経済部長=新城正一
- 宜野湾市議会議長=吳屋勉
- 恩納村長=志喜屋文康
- 恩納村議会議長=山城郁夫

第62回全国漁港漁場大会祝電一覧 (順不同、敬称略)

- 衆議院議員=下地幹郎
- 衆議院議員=玉城デニー
- 衆議院議員=赤嶺政賢
- 参議院議員=山内徳信
- 社団法人日本水産資源保護協会会長=川本省自

次回は青森県で開催



(社)青森県漁港漁場協会副会長 植村 正治

次回大会開催県協会挨拶

青森県漁港漁場協会副会長で青森県漁連会長の植村でございます。

本日は、第62回全国漁港漁場大会が、ご当地宜野湾市におきまして、かくも盛大に開催されましたことに対し、まずもって心からお慶び申し上げますと共に沖縄県民の更なる安泰を御祈念致します。

さて、来年度の第63回大会は、10月20日、23年ぶりに我が青森県において開催が予定されておりまして、関係者が総力を挙げて準備を整え、皆様方を全国各地からお迎えする決意であります。

スルメイカ、マグロ、ホタテなど

多種多様な水産物を生産

水産県青森をアピール

大間のまぐろ一本釣り、「むつ湾は世界的なはたて貝養殖の発祥地」であり、日本海で

水産県としての青森県は、「太平洋ではスルメイカ漁業」、「津軽海峡は鯛などのほか、水揚げ日本一の記録を保持しているひらめ等、四つの海に囲まれて多種多様な水産物が生産されておりまして、大会が開催される頃には津軽の霊峰・岩木山の麓のリンゴは赤く色づき、雪中行軍で有名な八田連峰や世界遺産の白神山は紅葉の真っ盛りであり、又、多くの温泉地を有する等々、海山の恵み豊富な本州最北端の青森へ、どうぞおいで下さい。

幸い、来る12月4日より東北新幹線が三時間余で東京と結ばれ、その他青森、三沢の二つの空港が有りますので、何卒ご利用の上、御来県をお待ち申し上げ、次回大会開催地の御挨拶とさせていただきます。

有り難うございました。

漁船海難遺児育英募金

～多くの参加者が募金～

募金活動の様子



全国漁港漁場大会では、「漁船海難遺児育英募金」活動が恒例となっている。今大会においても助漁船海難遺児育英会が佐藤信三専務理事を先頭に、地元沖縄県漁連の職員を協力を得て大会会場において募金活動を行った。

多くの参加者が募金活動に答え、大会が始まる頃には多くの参加者が胸に「水色の羽」を付けていた。



開会のことばを述べる志喜屋文康(社)沖縄県漁港漁場協会副会長 (恩納村長)



閉会のことばを述べる宮城宏(社)沖縄県漁港漁場協会監事 (糸満漁協組合長)



発言する高橋昌幸北海道漁港漁場協会副会長 (神恵内村長)



会場内での募金活動の様子



多くの参加者が募金に応えた

歓迎レセプション

大会前日の10月27日の午後5時30分から那覇市の「沖縄ハービーニューホテルクラウンプラザ」において、(出)沖縄県漁港漁場協会、(出)全国漁港漁場協会の共催で歓迎レセプションが開催され、上原裕常(出)沖縄県漁港漁場協会会長(糸満市長)が主催者を代表して挨拶、仲井真弘多(出)沖縄県知事の代理として知念武(出)沖縄県議会議長の発声で乾杯が行われた。

続いて、高柳充宏(内)閣府沖縄総合事務局農林水産部長、沈好鎮(特)特殊法人韓国漁村漁港協会会長が来賓の挨拶を行った。

参加した関係者は、沖縄県立芸術大学の学生とOBによる琉球芸能を楽しむなど和やかに歓談し、大会前日のひとときを楽しんだ。



歓迎する上原裕常(出)沖縄県漁港漁場協会会長

乾杯の発声をする高嶺善伸(出)沖縄県議会議長



挨拶する下地敏彦(出)沖縄県漁港漁場協会議事(宮古島市長)



琉球舞踊(谷茶前)



琉球舞踊(四ツ竹)



歓談風景



挨拶する沈好鎮(出)韓国漁村漁港協会会長



沖縄物産展示コーナー



会場入り口風景



開会前の会場風景



糸満漁港視察の様子



泡瀬漁港で説明を受ける韓国協会の皆さん



特選1席

農林水産大臣賞



特選2席

水産庁長官賞



全国漁港海岸防災協会会長賞

特選3席

入賞作品決定!

2010漁港漁場漁村海岸写真コンクール

（出）全国漁港漁場協会と全国漁港海岸防災協会の共催、(財)漁港漁場漁村技術研究所と(財)水産土木建設技術センターの協賛、水産庁後援による2010漁港漁場漁村海岸写真コンクールの入賞作品が、第62回全国漁港漁場大会の場で発表された。

同コンクールの作品審査は9月8日に行われ、入賞作品がパンフレットにまとめられて大会参加者に配布された。

入賞作品は、特選1席(農林水産大臣賞)1点、特選2席(水産庁長官賞)1点、特選3席(全国漁港漁場協会会長賞、全国漁港海岸防災協会会長賞、漁港漁場漁村技術研究所理事長賞、水産土木建設技術センター理事長賞)各1点、入選5点、佳作10点で、入賞者は別表の通り。

なお、入賞作品は全国漁港漁場協会のホームページに掲載しています。

全国漁港漁場協会会長賞



漁港漁場漁村技術研究所理事長賞



水産土木建設技術センター理事長賞



2010漁港漁場漁村海岸写真コンクールの入賞者

入賞	題名	氏名
特選1席	天日干し	石川 賢一 (高知県高知市)
特選2席	蛸捌き	高木 志津夫 (福島県いわき市)
特選3席	牡健	松井 文郎 (三重県志摩市)
特選3席	祭の人気者	近藤 吉真 (愛知県田原市)
特選3席	大きな獲もの	太田 誠二 (新潟県新潟市)
特選3席	磯漁	齊藤 芳正 (神奈川県横須賀市)
入選	干潟模様	村上 泰雄 (愛媛県新居浜市)
入選	朝霞の出港	吉野 耕司 (京都府舞鶴市)
入選	漁場を目指す	中尾 盛幸 (大阪府阪南市)
入選	初鯉水揚げ [組写真]	伊藤 良一 (神奈川県平塚市)
入選	海女の祈り	亀谷 宏 (千葉県八千代市)
佳作	港の朝	小澤 宏 (神奈川県小田原市)
佳作	小名浜漁港	門林 泰志郎 (福島県いわき市)
佳作	金目だい大漁 [組写真]	坂本 義治 (東京都足立区)
佳作	瀬戸の町	高取 一巳 (広島県府中町)
佳作	3代目は男の子	岡村 廣治 (三重県鳥羽市)
佳作	凍てつく漁村	福田 修逸 (青森県蓬田村)
佳作	早朝の太陽と漁船	椎野 清一 (北海道釧路町)
佳作	小休止	有田 勉 (岩手県宮古市)
佳作	何かくれるかな	廣瀬 綾子 (大阪府和泉市)
佳作	かけ声合わせて	藤本 京子 (千葉県千葉市)

